

令和7年度練馬区立豊溪中学校評価報告書

練馬区立豊溪中学校
校長 山根浩孝

1 自己評価結果

(1) 概要

本校は、練馬区の北西部に位置する丘の上にある。恵まれた自然環境の中にあり、地域、PTA、同窓会等地域の協力者に支えられ、昭和二十二年に新制中学校として誕生し、今年で開校79周年を迎える伝統ある学校である。しかし、課題もある。学区域が市や他区と隣接しており毎年入学してくる新入生の生徒数は40人前後と少ない。さらに学区域が複雑で地域によっては本校より通学時間の短い学校が隣接しており、学校選択制を利用して生徒が他校を選ぶ状況もある。昨年練馬区立中学校の統廃合計画が出され令和11年度から近隣の学校との統廃合計画が発表されたため、令和8年度入学者数は例年以上に少ない状況になっている。今年度の生徒数は144名であり、教職員数14名、部活動数5と少なくなっている。さらに、ベテラン教諭の退職、教員の入れ替わり等、豊溪中学校の特色を維持していくことが難しい状況である。これから5年先、10年先でも、地域から選ばれる学校にするため、練馬区研究指定校として、令和3・4年の2年間、コミュニティ・スクール研究校、令和5年はコミュニティ・スクール実証校、令和6年からはコミュニティ・スクール指定校として研究を重ね、地域とともにある魅力ある学校づくりに向けて取り組んでいる。

本校の中期的な経営目標を、(1)「保護者・地域とともにある学校づくりを目指す。(保護者・地域との連携・協働)」(2)「個別最適な学びを実現して確かな学力の定着と向上を目指す。(学力の定着・向上)」(3)「互いの人格を尊重して信頼関係を築き豊かな心の醸成を図る。(人権尊重 健全育成)」(4)「健康と体力の増進を図る。(体力向上)」(5)「教職員の資質の向上、組織力の向上を図る(組織力の向上)」に定め、教育活動を進めてきた。

(1)「保護者・地域とともにある学校づくりを目指す。」については、職場体験、地区祭、地域育成事業「広場の祭典」「ニコニコボランティア」への参加やコミュニティ・スクール指定校として地域人材を活用した「太鼓の授業」「ダンスの授業」「カフェズシロ」「ゆる部」「花壇づくり」の取組等、地域との連携を深め、生徒が地域とかかわる機会を計画した。学校だよりの発行、ホームページの更新を毎日行い、昨年度からは地域だよりの(年3回)を発行して、学校の情報を保護者、地域に発信している。課題としては、令和6年度学校評価アンケートでは、生徒に「地域交流やボランティア活動に参加できていますか。」の質問に対して、「とても思う」「思う」と回答した生徒の割合が、55%(66%)、「豊溪中は、地域、保護者と連携した教育活動に積極的に取り組んでいますか」の質問に対して、「とても思う」「思う」と回答した生徒の割合が、69%(66%)と昨年度より下がっているものもあり、十分な結果とはいえない。PTA・同窓会等、学校に協力してくれる方々との交流の機会をもつことをさらに増やしたい。コミュニティ・スクール指定校として、地域連携事業を推進するに当たり、地域行事やボランティア活動への参加については、生徒会にも働きかけ、生徒が主体的に取り組めるように、計画的に進めていく。(2)「個別最適な学びを実現して確かな学力の定着と向上を目指す。」については、学習指導要領の主旨を踏まえ、授業時数の確保や基礎・基本的な内容の指導に努めた。さらに、タブレット利活用推進校としての経験をいかし、できるだけ多くの教科の授業や、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、多くの場面でタブレットを使用する機会を設けるようにした。すべての教科・領域で有効に活用できたかについては今後の課題であり、校内研修会の内容や方法についても見直していく必要がある。また、授業時数の確保については、学校行事、年間行事予定や時間割を見直し、各教科の授業時数の確保に努めた。また、学力の定着と向上を図るため、計画的に研究授業を実施して授業力の向上に努める。授業形態、指導方法については、少人数の利点を活かし、数学・英語の2教科で少人数指導を実施した。1クラス2展開の授業を実施したが、今後も経験や指導力の向上に向けて計画的な指導が必要である。次年度以降も可能な教科で1クラス2展開の少人数指導を行っていく。

課題としては、「みどりの風吹くまちビジョン」にある、学習状況や生活環境に課題があり、「支援が必要な個々の生徒」への学習指導である。地域連携事業で学生ボランティアを活用した学習指導を展開することができ

たが、支援が必要な生徒の参加は少ない。次年度以降も学生ボランティアの指導者を増やすことや、昨年度から導入された別室指導専門員を活用することで、計画的に継続して、支援が必要な生徒への学習指導を行っていく。また、生徒の学習する機会として、放課後の自主学習教室 K 中ベーシック、K 中ゼミを実施した。多くの3年生がこの学習教室に参加することで、学習する習慣を身に付け、学校全体に学習に取り組もうという環境が醸成され、生徒の学習に対する主体性を育むことにも効果的であった。参加者をより増やすこと、学習教室の運営の仕方について改善をすることが大切である。

(3) 「互いの人格を尊重して信頼関係を築き豊かな心の醸成を図る(人権尊重 健全育成)」については、道徳の授業を中心に全教育活動を通して、心を耕す指導を心がけた。面談やいじめに関するアンケートを定期的実施して、生徒とのつながりを大切にし、いじめ問題の迅速な対応を心がけた。支援が必要な生徒や保護者には、学校教育支援センターの SSW が積極的にに関わり、毎月、情報交換を行った。課題は不登校である。学校生活にうまく適応できない生徒が1年7名、2年5名、3年9名が在籍しているので、今後も迅速に学校、家庭、専門機関等(子ども家庭支援センター、学校教育支援センター等)の連携をとって、適切な支援ができるようにする。不登校加配の教員を有効に活用して、不登校生徒が学校とのかかわりを深め、登校につながるよう、別室登校について全体で組織的に取り組んでいく。

(4) 「健康と体力の増進を図る。(体力向上)」については、保健・給食の年間計画を作成し、学校保健委員会や栄養士を活用した指導を行う。ここ数年、運動量を確保に課題があったことをふまえ、学校行事や生徒会活動、部活動を充実させ、生徒の健康と体力の増進を図る。

(5) 「教職員の資質の向上、組織力の向上を図る(組織力の向上)」については、小中一貫教育で旭町小学校との定期的な交流活動を実施することができた。校内研修については、服務事故防止研修会、生徒理解の研修会、コミュニティ・スクールの研修、評価についての研修、ICT 活用の研修を実施したが、さらに研修の内容を充実させる必要がある。今後もねらいを明確にして計画的に研修会を実施し、教職員の資質の向上を図っていく。

(2) 根拠となる資料(自己評価資料より)

12月に、生徒、教員、保護者全員を対象に学校評価アンケートを実施した。選択肢は「1 とても思う」「2 思う」「3 あまり思わない」「4 思わない」「5 わからない」の5つとし、このアンケート結果を学校関係者の方に見ていただき、評価をしてもらうようにした。()内の数値は昨年度の割合。

○5段階で評価して各段階の割合を出して「1 とても思う」「2 思う」と回答した数値を%で表示している。

◎ 左側から、生徒、教職員、保護者の順に回答した割合(%)を示している。

評価項目	生徒	教員	保護者
1. 授業は、楽しい。	71% (75%)	89% (69%)	73% (57%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
○ 全体的には落ち着いて授業はできている。個別に支援が必要な生徒への学習指導が必要である。			
○ K中ゼミ、K中ベーシックやテスト前の質問教室、家庭学習の習慣を身に付ける等の取組を今後も充実させていく。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
○ 大学生ボランティアを支援組織として活用する。また、地域未来塾を充実させる。支援が必要な生徒への学習指導に努める。			
○ 授業力の向上を図るため、教員の授業研修を充実させる。学力向上支援講師等を積極的に活用する。			
評価項目	生徒	教員	保護者
5. 挨拶、服装、言葉づかい、時間を守るなど生徒に基本的な生活習慣を身に付けていますか。	80% (83%)	67% (69%)	78% (81%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
○ 昨年度より、生徒、教員、保護者とも、肯定的な意見の数値が下がっている。			
○ あいさつを、自分からできる生徒が増えるとよい。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
○ 今後も個々の生徒の状況を踏まえた指導ができるようにする。			
○ 全教職員が率先してあいさつをする。共通理解をした指導を行うようにする。			

評価項目	生徒	教員	保護者
6. いじめや暴力等がなく、安心して生徒が通える学校ですか。	69% (69%)	78% (63%)	78% (75%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあい月間等を通して、いじめ、暴力等には共通した指導ができるようにした。今後も ○ 校内委員会等で、個々の生徒の状況について、組織的に共通理解、共通指導できるようにする。 			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後もあらゆる教育活動を通して、いじめ、暴力のない学校づくりに努めていく。 ○ SCや心のふれあい相談員、ふれあい月間、いじめアンケート等を利用して、継続的に指導できるようにする。 			
評価項目	生徒	教員	保護者
10. 健康や食育について学ぶ機会がありますか。	69% (69%)	67% (69%)	62% (50%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分で作る朝ごはんコンクール」への参加を通して、食の大切さを考えさせた。 ○ 給食試食会、学校保健委員会等実施できた。保護者の数値が下がっている。 			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土料理を給食の献立に取り入れ、今後も食について意識を高めるようにする。 ○ 学校保健委員会、給食試食会、HPの活用等、地域、保護者に学校のことを知ってもらう機会を増やす。 			
評価項目	生徒	教員	保護者
12. 進路学習は職業やなぜ働くのかなど考える機会になっていますか。	67.5% (75%)	100% (81%)	56% (71%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業調べ、職場体験などのクラス、学年発表会を行うことができた。 ○ ライフプランニングではソニー生命の講師の方から、講義していただくことができた。 			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間を見通して内容の充実を図り、今後も生徒にとって魅力のある学校行事を運営していく。 ○ 職業調べ、職場体験などできる内容を段階的に実施して系統的な指導となるようにする。 			
評価項目	生徒	教員	保護者
14. 部活動は、活発に活動していますか。	78% (72%)	89% (81%)	74% (53%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の機会をできるだけ確保する。 ○ 活発に活動している部活もあった。地域行事に参加してほしい。 			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の部活動環境を維持して、生徒にとってより充実した活動となるように支援する。 ○ 安全で充実した活動となるように、教職員の指導技術や指導方法について向上に努める。 			
評価項目	生徒	教員	保護者
20. 学校は、地域、保護者と連携した教育活動に積極的に取り組んでいますか。	69% (66%)	89% (88%)	90% (81%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 第六地区育成委員会等、地域の活動に参加できた。 ○ コミュニティ・スクールの取組で地域、保護者と交流、生徒の活躍を見てもらう機会が増えた。 			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だより、学年だより、地域だよりの発行、HPの更新等を定期的に行い、学校の様子を地域に積極的に発信していく。 ○ CS研究校、指定校の経験を生かして、地域連携事業、青少年委員、青少年健全育成委員会等と協力、連携をしていく。 			

評価項目	生徒	教員	保護者
21. 豊溪中に入学して（させて）良かったですか。	69% (74%)	100% (44%)	80% (62%)
自己評価についての評価結果および主な意見			
○ 多くの生徒が通えてよかったと感じているが、より多くの生徒に良かったと思うようにしたい。			
○ 「あまり思わない。」と回答する生徒がいることも大切な意見。生徒一人一人の理解に努め、ていねいな指導を心がける。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
○ 生徒に達成感を実感させるよう、生徒を前面に出し多くの経験を積ませ、生徒の成長を促すようにする。			
○ 生徒会活動等、生徒が主体となって活動できるような学校運営を目指す。CS指定校として地域とともにある学校を目指す。			

2 学校関係者評価

(1) 総括

年 11 回（毎月 1 回）の CS 協議会を実施して、本校の学校経営計画、特色ある教育活動、自己評価の結果について説明を行った。CS 委員の方からは、本校の良さ、課題について次のような意見をもらうことができた。

① 成果

○ 学校全体の取組

先生たちが努力していて大変だと思う。先生と生徒の信頼関係は良好だと思う。

道徳授業地区公開講座で豊溪中にスーパーボランティアの尾島春夫さんに来てもらったのはよかった。

地域との合同防災訓練はよかった。

学校全体の雰囲気はよい。廊下や教室でも子供たちに元気にあいさつをしてほしい。

生徒と先生とのよい環境を保ってほしい。学力だけでなく人として成長できる指導をお願いする。

○ 学習指導について

地域未来塾、K 中ベーシック、K 中ゼミをもっと活用してほしい。生徒が主体的に仲間と協力して学習することは大切である。

少人数指導は、できるだけ多くの教科に導入してほしい。

先生が意欲的に子供たちに向き合い、指導も工夫されている。楽しさとけじめをつけた指導はよいと思う。

○ 生活指導について

少人数の良さを生かし、これからも生徒一人一人を大切にしたい指導をしてほしい。

学校全体で、生活指導は共通理解、共通実践のもと、丁寧におこなってほしい。

② 課題

○ 学校全体の取組

今年度は豊溪中の特色ある学校行事が実施できてよかった。

地域のかかわりについては、CS 研究も含め、より進展することを望む。

生徒たちも、よくがんばっていると思う。

○ 生活指導の充実

様々な課題があると思うが、配慮が必要な生徒など一人一人を大切に育ててほしい。

これからも地域社会で活躍できるような生徒を育ててほしい。

○ 不登校生徒への対応

不登校生徒については大きな課題だと考える。専門機関との連携等、不登校生徒への対応をお願いしたい。

友人関係、学校への不適応等、いろいろな場合はあるが、生徒一人一人を見守っていく姿勢が大切である。

③ 改善策

学習指導では生徒一人一人へのていねいな指導を心がける。主体的に学習に取り組む授業を大切にする。

家庭学習の習慣が身に付くように学校から生徒、保護者へ今後も働きかけて、学力の定着向上を図る。

不登校生徒、学習状況に課題のある生徒には、別室指導専門員や専門機関等と連携して、生徒一人一人を大切にしたい指導を行う。

CS 指定校として地域連携事業を充実させ、学生ボランティアや地域協力者を活用した教育活動を推進していく。学校公開日等、保護者が学校に来る機会を計画的に設け、少しでも多く学校をみてもらう。

(2) 学校関係者評価委員会資料

	項目	具体的方策	学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた次年度の方策
			自己評価結果に対する意見	次年度の改善策に対する意見	
1	保護者・地域とともにある学校づくりを目指す。	保護者・地域との連携の強化。CS 研究の推進。	統廃合で生徒につらい思いはさせないでほしい。 ○CSの取組で地域との交流を深めることができた。 ○地域行事、ボランティア活動により多くの生徒を参加させてほしい。 ○学校日より、学年日より、地域日よりHPで学校の情報を発信してほしい。	○できることはしてあげたい。 ○PTAや地域との連携・協働を大切にして、良好な関係を築いてほしい。 ○より多くの生徒が、地域行事に参加できるとよい。 ○保護者、地域から信頼され、安心して通わせられる学校にしてほしい。	○CS指定校としてPTAや地域と連携を深める取組を行う。 ○少人数に対応した教育課程を工夫する。 ○ボランティアとして地域に貢献できる生徒を育成する。 ○学校日より、学年日より、地域だよりの発行等HPを活用して、今後も積極的に情報を発信する。
2	確かな学力の定着と向上を目指す。	授業規律を徹底し少人数指導を取り入れた学習指導の充実。	○授業は落ち着いた雰囲気で行われている。 ○少人数の指導をできるだけ有効に活用する。 ○授業の内容が理解できない支援が必要な生徒への手だてを考える。	○一人一人の生徒を大切にしたい授業を行っていく。 ○学習教室の活用等学習の習慣を多くの生徒が身に付けてほしい。 ○支援が必要な生徒に対して、ていねいな指導をしてほしい。	○今後も少人数指導をできるだけ実施して、生徒一人一人に応じた指導を実践する。 ○研究授業を計画的に実施し、教員の授業力の向上を図る。 ○地域連携事業により学生ボランティア等地域協力者をできるだけ活用して、教育活動を充実させる。
3	豊かな心の醸成を図る。	道徳の指導や体験活動を通して、豊かな心育む。	○道徳等の全教育活動を通して豊かな心を育ててほしい。 ○ふれあい月間やいじめアンケートを活用していじめ防止活動に計画的に取り組んでほしい。	○思いやり等生徒の心を育てる指導をしてほしい。 ○ふれあい月間等の機会を通して、学校全体でいじめ防止に取り組む。 ○尾畠さんに来てもらえてよかった。	○道徳教育推進教師を中心に「特別の教科道徳」の研修を計画する。 ○講師招聘など体験活動を充実させ心の育成に取り組む。 ○生徒会によるいじめ劇等の活動を通して、いじめの未然防止に努める。
4	健康と体力の増進を図る。	保健体育や保健・給食の指導を通して、体の育成に努める。	○計画的に運動する機会を設け、体力の向上を進めてほしい。 ○不登校生徒・保護者との連絡をていねいに行い、専門機関と連携した指導をしてほしい。	○保健体育の授業を中心に計画的に運動量を確保して体力の向上を図る。 ○SC・専門機関と積極的に連携する等、組織的な指導に取り組めるようにする。	○保健体育の授業でTTの指導を取り入れよりていねいな指導をおこなう。 ○保健給食の指導を充実させる。 ○特別支援コーディネーターを中心に積極的にSC・外部機関との連携を進める。
5	教職員の資質の向上、組織力の向上を図る。	人権教育の研修、授業力向上の研修等を計画して学校教職員全体の資質向上に努める。	○一人一人の生徒を大切にみてほしい。 ○生徒にはできるだけ多くの体験をさせてほしい。 ○学校外でも誰でも気持ちよくあいさつができる学校にしてほしい。 ○生徒との信頼関係を大切にしたい指導をこれからもしてほしい。	○定期的にも人権研修を行い、人権感覚を磨くようにする。 ○生徒ひとりひとりを大切にしたい指導を心がける。 ○生徒一人一人の理解に努め、信頼関係を大切にしたい指導をしてほしい。	○生徒の主体的な活動の機会を計画的に設ける。 ○職場体験等の体験活動を充実させ、あいさつや言葉遣い等、社会に必要なルールやマナーの大切さを学ぶようにする。 ○学校全体で、生徒が相談しやすい体制づくりに努める。

3 評価結果の公表について

評価結果については、次のようにして保護者・地域に公表する。

日 時	内 容
令和7年12月	○生徒・教職員・保護者アンケートの実施
令和8年1月	○学校評価アンケートの集計（生徒・保護者・教職員） ○自己評価の分析、成果、課題のまとめ
令和8年2月中旬 ～3月	○CS協議会の意見をもとにした学校評価のまとめ ○保護者会や学校だよりで、今年度のアンケート結果、分析の説明
令和8年4月	○年度当初の全体保護者会、教育課程説明会で令和7年度の成果・課題、 令和8年度に向けての改善策についての説明

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

CS協議会の中で本校生徒の生活全般の様子は、「授業や行事によく取り組んでいる。」と評価された。学校は、教職員が先頭に立って、あいさつの励行、そして、生徒の主体的な活動を促し、生徒会を中心とした取組を充実させるよう指導してきた。しかし、中には自分の気持ちや思いをうまく表出できない生徒の姿も見られ、自分の思いをうまく相手に伝えることや、他の人を思いやること、コミュニケーションをとるといふ面においては課題があった。今後も生徒の主体的な活動を重視するとともに、一人一人の生徒に様々な体験をさせることを通して、自分の気持ちをうまく相手に伝えることができる生徒、人の気持ちのわかる生徒、人の痛みがわかる生徒を育てていきたい。

「保護者・地域とともにある学校づくりを目指す」ことについては、コミュニティ・スクール指定校としての研究を通してPTA、地域、同窓会等、多くの組織と連携を少しずつ深めることができた。来年度もコミュニティ・スクール指定校として、保護者、地域の方々の学校に対する期待と受け止め、その力を学校運営に生かしていきたい。課題としては、地域、保護者と教職員が一緒になって、目の前の生徒達をどのように育てていくのかを話し合う時間設定や熟議を通して課題や思いを共有する機会を継続してもつことが大切だと考える。働き方改革を進める中、地域、保護者と学校が連携・協働することができるかとも考えていく。

「個別最適な学びを実現して確かな学力の定着・向上」については、第一は授業を大切にすること。基礎・基本の確実な定着・向上を図るため、教育課程を工夫して授業時間を確保して、授業規律を大切に学習活動を展開する。さらに、少人数指導を通して学力の向上を図る。来年度は、地域協力者や学生ボランティア等と協力しながら、別室指導等支援が必要な生徒への学習指導も計画的に実施する。

「互いの人格を尊重して信頼関係を築き豊かな心の醸成を図る」については道徳教育推進教師を中心に「特別の教科道徳」の指導において、全員が共通理解して年間指導計画に基づいた指導を行う。講師の招聘も含め全教育活動を通して豊かな心を育てていきたい。

「健康と体力の増進を図る」ことについては、次年度は、単学級の学年もある中、時期や内容を工夫して学校行事を実施することになる。来年度以降も、実施する内容を吟味し、生徒が安心して参加できるようにする。保健・給食の年間計画を作成し、学校保健委員会や栄養士を活用した指導を行う。学校行事や生徒会活動、部活動を充実させ、安全面にも十分配慮した上で環境にも留意して生徒の健康と体力の増進を図る。

「教職員の資質の向上、組織力の向上を図る（組織力の向上）」については、教職員の役割は生徒の良さや可能性を引き出し、伸ばすことである。生徒が楽しい、もっと学びたいという気持ちにさせるには、教職員全員の力が必要である。教職員が協力して指導力を高めていくことが大切である。全員が力を合わせて大切な子供たちを育てていく。